

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



バス電車徒歩新幹線

「自分ぐんぐんプロジェクト」のインタビュー課題について、各ご家庭でもたくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

小学校に入る前の頃を思い出して、自分の成長を実感するきっかけにできればと考えています。

ご家庭によっては、びっしりとお子さんの成長について書いてくださったところもあり、ご家庭でのそれぞれのやり取りを思い浮かべながら温かい気持ちになりました。

発表の完成に至るまで、ここから ICT スキルの更なるレベルアップ（曲の挿入、ムービーの作成）などいくつかの関門がありますが、一人一人の成長を感じながら少しずつ進んでいきたいと思えます。

1年生の終わりが近づく中で、今は「1年間の成長」について話す絶好の機会でもあります。

ご家庭でのふとしたひと時に、「成長」や「変化」を話題に載せていただけると嬉しいです。

さて、私の朝の通勤（登校）ルートは大きく3つあります。

一つはノーマルモードの徒歩通勤。

もう一つは、見守りがかねての電車通勤。

そしてもう一つも、見守りがかねてのバス通勤です。

以前のコスモスハーモニー「[SOLAN の車窓から](#)」でも紹介した通り、バス内でのマナーの指導や見守りがかねて幾つかのバスルートに乗車して通勤することがあります。

また、名鉄瀬戸線に乗って登校している子たちを見守るために、ここ数カ

月ほどは定期的に電車に乗って通勤をすることにしています。

つい先日も、いつもは電車で顔を合わせなかった 1 年生が見かけたので挨拶をしつつ「最近乗り始めたの？」と尋ねてみました。

その子は、「うん、今日で 2 回目」と答えました。

お母さんが駅まで送ってくれたそうで、ドキドキしながら電車に乗ったとのこと。

きっと「はじめてのおつかい」のように電車に乗ったんだろうなあと想像しながらそのチャレンジに「すごいね〜」「一人で電車に乗れるようになったんだね」と声を掛けました。

日々、担任団には膨大な情報が他方から寄せられるため、意図的にこんな風に通勤ルートを変えたりしないとキャッチしにくい情報もあります。

電車に乗る子どもも少しずつ増えてきていることも受け、定期的に乗車して日々子どもたちの様子を見守りたいと思います。

それから、徒歩通勤のルートも、日によって変えています。

変えることによって、思わぬところでお家の方や子どもたちに遭遇できることも少なくありません。

今朝も、そんな風にある保護者の方とばったり出会ってしばらく立ち話をしました。

以前までは駅まで見送りをしていたのが、少しずつその距離が短くなってきたようで今朝は大きな横断歩道近くで手を振って見送っておられました。

そこでの立ち話で聞いた話が、また素敵だったんです。

「昨日の算数プリントで、初めて時間内に 40 問解けた！ って喜んで帰ってきて、『これも成長かな〜』って話していたんです」

自分の変化のことを見つめて、それを「成長かな〜」と捉えて言語化しているところに、普段学校でもそんな風に声掛けをしてくれているのかなと感じられたとのことでした。

確かに、学校でも「成長したね」という言葉をいろんな所でかけています。

以前もコスモスハーモニーで紹介したように、子どもたちの心に一番届く誉め言葉は「成長したね」という一言なのだそうです。

ともすれば、身近で間近に見ているとその成長の歩みを感じにくいことがあります。よくよく目を凝らせば山ほどの成長ポイントに気づくことができるはず。

そのお家の方とは、「朝の準備」についてもお話ができ、「前までは遅れそうになった時についついこっちが口うるさく声をかけて本人が怒りだすこと

が結構あったんですけど、最近はできるだけ見守るように変えたんです。そしたら今朝は『もっと早くに〇〇しとけばよかった』って自分で振り返りながら慌てて家を出てきました。これも大切な学びですね。」という話を聞かせてもらいました。

もうこの話題だけでも数時間話し込めそうな、豊かな内容でした。

以前、別のお家の方にもお話したんですが、朝の準備で遅れそうになった時は、全て大人が手助けするのではなく「遅刻させてあげる」ことも大切な学びになりますよ、と伝えたことがあります。

「この準備の仕方では朝の時間に間に合わない」と知ることも、非常に大切な学びです。

そして、「自分でそれに気づき改善ができた」なら、それは今後の人生において非常に大きな意味を持つ経験になるでしょう。

ですから、そういう学びのチャンスがある時は「準備の仕方を学ぶ絶好のチャンスだと思うので、今日は遅刻して登校させます」と連絡をもらえれば、学校でもそのように受け止めるのでご安心ください

と、そのように伝えたところ実際に「遅刻学習」を実施されたお家の方もおられました。

もちろんその時は、学校側でも「今朝は大切な学びのチャンスだったね」と声をかけたということです。

仕事でも勉強でも勝負でも、得てして成功より失敗から多くのことを学ぶものです。

適切につまづかせてあげる。

そしてそこからの起き上がり方を自分でつかませてあげる。

性格や特性によって、その失敗体験の仕様は様々ですし、起き上がり方も千差万別です。

柔道に受け身の稽古があるように、登山に滑落訓練があるように、きちんと転ばせてあげて、そこからどうリカバリーするかを学ぶチャンスをしっかり保証してあげたいなと考えているこの頃です。

そういえば、SOLAN の子たちが利用しているもう一つの交通機関に「新幹線」もありましたね。

今度可能ならば、その見守りもできればなぁと考えているところです。

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](http://www.google.com)